

シンポジウム

キリスト教文化研究所主催（共催 現代ビジネス学科 / 現代ビジネス学会 人間文化学科 / 人間文化学会 生活文化デザイン学科 / 生活文化デザイン学会）公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」を終えて

永 田 貴 聖

2021年12月4日土曜日、京都精華大学学長であり、日本初のアフリカ系学長であるウスビ・サコ先生をお迎えして、公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」が開催された。

2020年2月から本格的になった新型コロナウイルスの世界的な拡大により、社会において多くの行動が制限されてきた。それは、本学関係者においても同じである。しかし、本学では、2020年度後期より、一部の少人数授業では対面形式を再開するなど、「密」になることを避けながら、できる限り教員・学生間が直接的に関わることを重視してきた。「コロナとともに生きる」という苦しまぎれの美しい言葉には、苦労が多いというのが本音である。学内では、学生たちはマスクをすることはもちろん、友人たちといちばんおしゃべりをしたい20歳前後の時期に、昼食時は「黙食」を強いられている。そんな生活は2年以上も続いている。ただ、その間にも世界は動いているのである。

キリスト教文化研究所主催（共催 現代ビジネス学科/現代ビジネス学会、人間文化学科/人間文化学会、生活文化デザイン学科/生活文化デザイン学会）公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」を終えて

この講演会が開催されることになった経緯について説明しよう。キリスト教文化研究所に関わる数名の教員から、ウスビ・サコ氏の著書『「これからの世界」を生きる君に伝えたいこと』（2020年7月、大和書房刊行）の内容が現在の大学生たちにとって重要なメッセージとなるのではないかという意見があがった。これはあくまでも筆者の個人的な意見ではあるが、なかでも、「個」がいかにして、「個」であり続けながら多様性を認めていくかという点が重要であるように感じた。グローバル化といわれる、さまざまな人、モノ、情報、そして、カネが国境を越えて往来する現代において、SNS等の情報や、「空気感」と呼ばれる他人からの視線という見えないものに惑わさず、いかにして自分らしく生きることを大切にできるのか。さらに、「個」が他人の自分らしさといかに対峙し、時に共有することを重視しながら暮らすことができるのかということを学生、教員がともに考える機会をつくろうという発想から講演会の準備が始まった。

サコ先生は学長を務める京都精華大学が位置する関西圏だけではなく、現在、全国放送のテレビにも出演するほどの有名人である。偶然にも、2020年度に本学に赴任した筆者は大学生時代、当時京都大学の大学院生であったサコ先生と交流があった。筆者からすると、いろんな助言をしてくれた先輩のような身近な方がたまたまアフリカ出身で、その人が有名になったといっても言い過ぎではない。その延長線で、サコ先生に今回の企画のことを相談した。先生からは学長業務もあるから、まずは京都精華大学の担当者の方に連絡するように助言を受け、担当職員の方を通じて快諾をいただくことができた。

講演会の内容や準備については、今林教授、研究所担当の丑田副手と筆者で会議を重ねながら、書籍の内容を意識しつつ、サコ先生が講演の直近まで感じている大学や学生のあり方について、さらに女子大学という本学の特性を踏まえつつ、気楽に話せる内容にするように努めた。その結果「日本の次

キリスト教文化研究所主催（共催 現代ビジネス学科 / 現代ビジネス学会、人間文化学科 / 人間文化学会、生活文化デザイン学科 / 生活文化デザイン学会）公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」を終えて



登壇するウスビ・サコ先生

世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」というテーマが決まり、サコ先生にお願いすることとなった。

研究所担当の丑田副手には、各団体への後援の手配、事務全般、さらに、ポスター・チラシのデザイン案作り、当日のインターネット配信業者の手配とやりとりなど、開催に必要な業務を円滑に担っていただいた。

また、事前に、講演会後の交流会に参加予定であった現代ビジネス学科、人間文化学科、生活文化デザイン学科の学生たちには、サコ先生の書籍を配布した。現代ビジネス学科では、書籍の内容について意見交換を実施している。そのうえで、学生たちは交流会のためにサコ先生への質問を考えているようだった。

12月4日、筆者・永田貴聖を司会としてウスビ・サコ先生を京都からお迎えして、公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」が始まった。講演会は、本学講堂を対面参加会場にとして、YouTube ライブ配信を行い、オンライン、対面とも多くの方々が参加した。当日、サコ先生が東北新幹線の特急「はやぶさ」ではなく、各駅停車の「や

キリスト教文化研究所主催（共催 現代ビジネス学科/現代ビジネス学会 人間文化学科/人間文化学会 生活文化デザイン学科/生活文化デザイン学会）公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」を終えて

まびこ」に乗り間違え、開催直前に到着するというハプニングもあった。冒頭、司会からのプロフィールの紹介、キリスト教文化研究所所長の八木祐子教授による開会挨拶につづき、サコ先生のお話しがはじまる。

サコ先生は自己紹介として、まず出身国であるマリ共和国の言語、文化の多様性について話された。印象的だったのは、フランスの植民地だったマリの公用語はフランス語という話だった。政府の公文書や、役所ではフランス語が使われる。そこに日常、人々が使用する民族ごとの言語が多数ある。そして、識字率、つまりフランス語を話せる割合は約30%なのである。サコ先生は、この原因は、こどもが学校に行くことで家の農業の手伝いが一人減ってしまい、学校に行くことが好ましくないと考える人が多いと説明した。

また、マリの人々は自己紹介や挨拶を重視する。知っている人とすれ違くと短くて3分はかける。例えば、出会った人がその人の共通の知り合いの安否や家族の様子を質問して、それに答えるというやりとりを続ける。最近、サコ先生は、この挨拶に時間をかけることでその人の周囲の関係性を確認で



交流会での記念撮影

キリスト教文化研究所主催（共催 現代ビジネス学科 / 現代ビジネス学会、人間文化学科 / 人間文化学会、生活文化デザイン学科 / 生活文化デザイン学会）公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で生きよう～」を終えて

きることは、人々の関係が希薄になるコロナ禍においてはむしろ大切だと感じるようになったと話された。

次に、中国での留学を経て、日本にはじめて来日した時、商店街にある日本人の友人宅に何日も滞在し、周囲の人々の気さくな態度がアフリカと非常に似ていると感じたようです。しかし、一方、戸惑いもあった。毎日のようにパーティーをしていたら、そのうちのご両親に迷惑がられていた。しかし、それを直接伝えられるのではなく、遠回しにそのことを表現され、迷惑であることが当初はよく理解できなかったらしい。

そして、サコ先生は京都大学大学院に入学されてから、さまざまな国際交流の活動に参加し、留学生だった友人と交流グループを結成した。これらの活動を行う中で、サコ先生は、「ダイバーシティ（多様性）」が重視される社会において必要なことは、マイノリティ（少数派）が優遇されることではなく、マジョリティ（多数派）の意識改革であると強調していた。それは、外国人が日本のお客さん扱いされるのではなく、一時滞在するだけの存在と考えられるのでもない。外国人が日本に居場所を作ることができる社会になることである。日本社会が文化的な同質化を強いるのではなく、「違う」ということを認め、他者と出会い、「自分」を再発見すること、そして時には文化衝突することに価値をおくことが肝心のだということである。また、外国人も日本に適応する過程において、同様の衝突を経験することが大事であると強調された。つまり、「違い」があるままで日本人と外国人が一緒に暮らしてゆくということである。それによって、日本人も自身の価値の新たな視点を発見できる。

そこで、サコ先生は、「違い」があるままで共に暮らす社会を単に、外国人×日本人の関係だけではなく、大学での学生×学生間関係でも重要であると考えている。それを実現すべく学長を務める京都精華大学においては、さまざまな改革が試みられている。「自由論」、「哲学」、「市民社会論」の必

キリスト教文化研究所主催（共催 現代ビジネス学科 / 現代ビジネス学会、人間文化学科 / 人間文化学会、生活文化デザイン学科 / 生活文化デザイン学会）公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で活きよう～」を終えて

修科目化によって、学生一人一人が自身の社会での立ち位置や「自分は何者であるのか？」ということを考える機会をつくるように努めている。そのような機会を増やすことによって、学生自身が「自分」というものを確立していくのである。

そして、最後にサコ先生は、世界は日本が均質性を重視するとみていること、さらに、日本の社会は、人々に均質性を強いて、個性や違いを重視していない状況を変える必要があることを熱く語った。講演会終了後の交流会では、学生たち教員たちから積極的に質問が行われ、大いに盛り上がった1日となった¹。

¹ 当日のアンケートからの感想の一部は次のサイトに紹介されている。<https://news.mgu.ac.jp/educations/news/2171.html> 2021年度キリスト教文化研究所公開講演会「日本の次世代のこれから～多様化する世界で活きよう～」を開催しました 宮城学院女子大学ウェブサイト 2022年2月14日検索